

大会概要

テーマ

山とまちと木造建築

期日...平成29年12月8日(金)

会場...京都市勧業館「みやこめっせ」
〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町9-1

主催...公益社団法人 日本建築士会連合会

共催...近畿建築士会協議会(滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)

主管...一般社団法人 京都府建築士会

後援...国土交通省、京都府、京都市
 公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター
 公益社団法人 京都モデルフォレスト協会
 京都北山丸太生産協同組合
 一般社団法人 京都府木材組合連合会
 公益社団法人 京都文化交流コンベンションビューロー



大会を終えて、 実行委員長としての所感

2014年に実行委員長を指名されて2017年12月までの期間、大変だったでしょうと言われる。しかし京都府建築士会の優れた力を疑うことはなかったため精神的なストレスはなく、委員長として最も心を配ったのは、さまざまな部会の連携をいかにとるかということでした。

2014年5月に衛藤会長から、全国大会のテーマ「山とまちと木造建築」の企画案が示され、それを実現すべく8月にキックオフミーティングとして12人のスピーカーによるリレートークを開催しました。翌年からは「アクションステップ」と称して体験交流会や見学会、勉強会を企画開催、キックオフミーティングを受けてのアクションミーティング-01「8つのキーワードスピーチ」を開催しました。その後もアクションステップやアクションミーティングを重ね、途中で大会テーマを掲げての近畿建築祭京都大会を経て2017年に至りました。最初はまだまだ3年先だなという余裕があったものの、2017年の声を聞いてからは、本当にあっという間に時が経っていききました。

じつは、こんな京都大会になれればよいなと

思っていたことがあります。それは「歴史に残る全国大会」ということです。全国大会は地域の特色を出すことが全国から集まる会員の感動につながるのだろうと漠然と感じていましたが、それでは、「歴史に残る」ためには京都では何をすればいいのか。京都開催が決まってから福島大会、金沢大会、大分大会に参加し実感したのは、帰りに「ああ、いい大会だったね」と言ってもらえるような大会とは、開催されるさまざまなイベントすべてに力を注ぎやり遂げることで決まるのではないかということでした。そしてその部分に関して、本当に実行委員会のメンバーの努力と頑張りは誇れるものです。

年始の会誌『建築士』に三井所会長が新年の挨拶に書かれていた「用意周到に準備された記憶に残る大会」という言葉は私たちにとって大変な喜びでした。大会記念誌のデザインや会場サインなどに始まり、セッション、記念フォーラム、大会式典、大交流会、エクスカッションすべてにおいて手づくりで企画を練りそして実行できたことを、参加していただいた全国の会員に感じていただけたのだと思います。

大会当日午前中、私は式典のリハーサルに張り付いていたため、他の会場を回ることが

できなかったことが残念ですが、記念フォーラムの、3年かけてすすり掘り下げたテーマの発表の様子や、式典の本番で満席になった会場を目の当たりにした時、大会成功の手ごたえを感じました。

その後の大交流会では、「京都居酒屋物語」というタイトルをつけて最後まで食事に交流に楽しんでいただき、「京都慕情～京都大会バージョン」の大合唱も感動していただけたと思います。

ご用意した18名のコースすべてが満員となった次の日のエクスカッションでは、コースの内容もさることながら、何より皆さん事故もなく無事に帰路につかれたことの報告に心底安堵いたしました。

本当に成功したのだなと実感したのは、全国からの参加者の皆さんはもちろんのこと、事前準備からのすべてのスタッフ、出展企業の方々、飲食ブースや大交流会の飲食を引き受けていただいたツバス会のメンバーなどの人々の笑顔を見たときです。思い描いたような「歴史に残る全国大会」になったことに、貴重な体験をさせていただいたことに、心から感謝をいたします。ありがとうございました。

(黒木幹雄 / 全国大会実行委員長)